

2020年5月実績概要（メモ）

（2020. 6. 18）

定期修理に伴うエチレン等の大幅減産もあり、誘導品の生産も大きく前年を下回る品目が目立つ。

1. 生産動向

イ) エチレン 438,400トン

前月比 ▲5.8% (▲26,900トン)
前年同月比 ▲12.6% (▲63,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	▲ 6.6%	▲ 5.2%
能力増減	-	+ 0.1%
稼働率変動	▲ 2.5%	▲ 7.5%
生産増減率	▲ 5.8%	▲ 12.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月91.4% → 当月89.4% ← 前年同月95.8%

定修プラント：前月2社2プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加とともに定修規模差や稼働率要因からLD、PS、SM、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼンなどの9品目がプラス。HD、PP、塩ビモノマー、EO、EG、ANなどの8品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等からLD、PP、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がマイナス。HD、PS、SMの3品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加とともに定修規模が減少したLDのほか、PSでは稼働率要因からプラスとなった。HD、PPは定修規模の増加や稼働率要因等からいずれもマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模の差や稼働率要因からLD、PPはマイナス。HD、PSはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、連休に伴う営業日数の減少が主因としてある中、緊急事態宣言下における消費動向としては前月に比べて下げ止まりが見られるも依然として厳しい状況となった。同時に産業分野における輸送機械関連等を中心とした生産面でのマイナス影響も相まって、LD、HD、PP、PSの4樹脂ともに大幅なマイナスとなった。

前年比でも、4樹脂ともにマイナスとなり、近年における5月の出荷量としていずれも最低のレベルの出荷となった。分野別でも主用途のLD、HDのフィルム分野、PPの射出成形分野、PSの包装分野の出荷で大幅な減少が見られた。

ハ) 輸出

前月比では、LDを除き、HD、PP、PSの3樹脂でプラスとなり、通常レベルの輸出量に戻つつある。

前年比では、前年の輸出数量が低めであったこともあり、LD、HD、PPはプラス、PSは微増となった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PSは増加、HD、PPは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PP、PSともに上昇した。在庫水準としては、出荷レベルが低下したこともありLD、HD、PP、PSともにやや高め数値が出されている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LD	+15,900	3.2	3.7
HD	▲ 7,700	2.9	3.4
PP	▲ 400	3.2	3.6
PS	+12,900	2.0	2.4